

「フライフィッシャーマンのための  
季刊誌」

**Jurassic Cadiss** Hook : TMC 80P 10/0 (Special pike hook for Holland)

Thread : 8/0 nylon (tan and dark brown) , Mist Brown monofilament

Wing : Shimazaki Fly-Wing II (original silk-sclean print for

Jurassic flies) layered 0.015mm polyethylene film with 0.1mm polypropylene boss-side tape

Body : Polyethylene flexible foam  $\phi$  10mm, 0.1mm polypropylene boss-side tape, wrapped ostrich heal and tight ribbing

Ribbing : Mist Brown monofilament

Hackle : Dry-Shaked ringneck cock pheasant tail fibers

Eye: Marking pin's ball, black lacquered Under thorax : Dark grey C.D.C feather

Antenna : Cock hackle stems Shack : Hollow construction with

0.01mm polyethylene film by Shimazaki Multi-Glue,

helon body feather's speckled brown web (picked up in zoo), wood duck lemon side,

...and cristal flash...this is a quite service for dear jurassic trout.

# フライの 雑誌

FURAI NO ZASSHI EARLY WINTER ISSUE

1999 初冬号

48



Jurassic Drake

フライの  
巨大  
ファンタジー

**[特集]** ああ、管理釣り場(釣り堀)

## シマザキ・ワールドⅦ・ Jurassic Flies

われわれには  
質の高い「釣り堀」が

必要だ

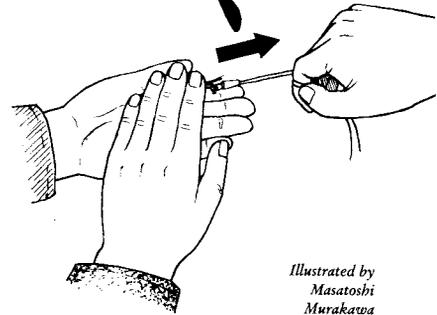
信じる者は救われる

ヒトの体に刺さった釣り針は

# 糸で抜く

末永仁

すななが・ひじ／茨城県日立市／医師



Illustrated by Masatoshi Murakawa

同じ医師会の野々垣洋一先生のご薫陶を受け、どっぷり浸かっていたはずのブラックバス・フィッシングからあつさり足を洗い、頭のとっぺんまですらいのめり込んで三年半。未だフライフィッシングのあれこれについて「フライの雑誌」に登場するほどの者ではないのですが、「釣り針刺傷」については少なくとも茨城で一番(本当は日本)ことだと思っているの、図々しくも本誌編集部のお誘いを引き受けて書かせていただくことにいたしました。

また、すでに原稿を書き上げていた時点で、「フライフィッシャー」12月号(140ページ)に加賀フィッシングエリアの倉上氏が釣り針の抜き方についての文章を載せておられたので、これを受けて医師の立場からもう一度書き直させていただきます。

「再貫通」させて抜くのは危ない、強、糸を使って抜く方法が一番いい

私の病院は太平洋を望み、目の前に日立港が広

がる場所に位置しておりますが、このあたりは(例のJCOの事故が起こるまでは)県内外から平日でも多くの釣り人が訪れ、多い日には四、五件の「釣り針刺傷」を処置した(体に刺さった釣り針を抜いた)ことがあります。私が使っている方法は大きく分けて三種類あり、倉上氏の書かれている内容と大差はありません。

「第一法」と私が呼んでいる方法は、麻酔をし、切開して釣り針を抜く方法です。しかし、この方法は麻酔薬による人体へのショックの問題があり、医療によつて新しい傷をつくる(過剰医療にもなりかねない)という側面もあります。少なくとも釣り場で行なうには現実的な方法ではありません。さらに、後日医療機関に通院しなくてはならないというデメリットなど、多くの問題点があります。

「第二法」は、倉上氏が細かく説明されている「バンプを押し出す方法」つまり刺さった釣り針の先を皮膚表面まで「再貫通」させる方法です。しかし、この方法も新たな傷をつくってしまいます。し、シヤンクが細いドライフライ用のフックの場合

合は再貫通時に折れることがあり、この場合「伏針」と呼ばれる外科的にもっとも処置しにくい状態をひき起こしかねません。伏針を除去するには、レントゲンで透視しながら抜くか、見当をつけて大きめに切開して探すしか方法がなく、臨床的に最も避けたい状態となります。倉上氏にはもうしわけありませんが、うかつにこの方法をすすめるいほうがいいと思います。人間の皮膚は、針などで一気に力をかけると簡単に貫通してしまうのですが、ゆっくり力を加えたときは意外と強いのです。海釣り用やストリーマー用などのシヤンクが太い釣り針以外は、「再貫通」は行なわないほうが無難です。

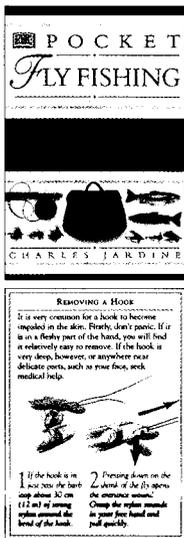
じつは、私はここ二年間、この「第一法」も「第二法」も一回も採用しておりません。

そして「第三法」と呼んでいる方法。まさに倉上氏が「プロガイドのテクニク」と紹介されている方法ですが、この二年間はすべてこの方法で対処しております。もともとはイギリスなどで古くから広く行なわれていた、ふつうの釣り師が釣り場で釣り針を刺してしまったときその場で自分で抜くための方法です。

この方法を知ったのは三年半ほど前で、興味本位で購入したCharles Jardine 著の「Pocket Fly-fishing」という手帳のなかに「釣り針の抜き方」という小さなコラムがあったのです。あまりに小さなコラムで、全貌が理解できず、こんな方法で抜けたら苦労はしないかと思っていました。それから一年ほど経って、通販の「Cabela's」のカタログを見て「Dr. Jim's How To Get The Hook

Out」というビデオの存在を知り、購入してみました。引退した救急医であるジムおじさんが、三〇〇例を超える経験をもとに実際にフタの皮に刺した釣り針を見事に抜いて見せるのです。フタの皮は人間の皮膚に似ているので、アメリカの医学生は縫合の練習をフタの皮で行ないます。最後には、このおじさんが自分の腕に深々と釣り針を刺し、それを一人で抜いて見せるというデモンストレーションまでありました。なんとも合理的で単純明快な方法。新しい傷はつかず、通院する必要もなく、抜く際に釣り針にかかる負担が小さいので伏針になりにくく、その場で行なえる方法であることが理解できました。

そのときの印象は、第一法、第二法で抜いていたことがまるで犯罪だったように思えたほどでした。そのときから、「第三法」以外を使用していません。つけ加えますと、この方法はルーアーやストリーマーなどに使われるトレブルフック（錐形の三本針のうちの本を刺してしまった場合にも有効です。まったく問題がなく、私も三例の経験があります。また、この「第三法」が優れている点は、組織損傷が少ない点です。力学的に考えても、釣り針が刺し入れられてきた組織内のトンネルを



REMOVING A HOOK  
It is very common for a hook to become impaled on the skin. Firstly, don't panic. If it is in a fleshy part of the hand, you will find it relatively easy to remove. If the hook is very deep, however, or anywhere near delicate parts, such as the nose, neck, or medical help.

1. If the hook is in a fleshy part of the hand, you will find it relatively easy to remove. If the hook is very deep, however, or anywhere near delicate parts, such as the nose, neck, or medical help.

2. Turning down on the end of the fly opens the entrance wound. Change the system around so your fly hand and pull gently.

● Charles Jardine 著「Pocket Flyfishing」

ほぼ直線的に針先が戻るようになりません。パープ（針先近くの「カエシ」部分）による損傷を案じる方もおられるかも知れませんが、もうすでに通ってしまつて完成されているトンネルを戻すだけです。パープが多少引つかかりますが、そこはすでに一度パープで切り裂かれた後なのです。この方法なら、新たな切開による組織損傷や貫通法による新たな組織損傷より被害が小さくて済みます。

### 眼球周囲に刺さったら、救急車を呼ぶこと

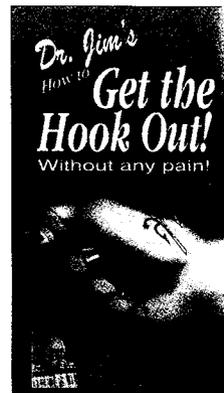
実際の「第三法」のやり方をご説明する前に、まず大前提としてお断りしなくてはなりません。倉上氏も述べておられましたが、眼球周囲に刺さってしまった釣り針には手を出さないことです。これにはとくに注意していただきたい。倉上氏が紹介されている症例では、子供は失明せずに済んだようですが、いわゆる「眼球損傷」は損傷した眼球だけでなく損傷を受けなかった反対の目も失明することがあります。「交感性眼炎」といわれ、非常に重篤な状態をひき起こすこともあるので、眼球周囲に釣り針が刺さった場合は直ちに救急者を呼び、眼科の医師がいる病院で総合的な判断を受けることを忘れないでください。

今年(99年)六月、ずっと心配していた「日立港での眼球損傷事故」が起きてしまいました。事故に遭われた方は帽子とサングラスを着用していましたが、わずかな隙間から釣り

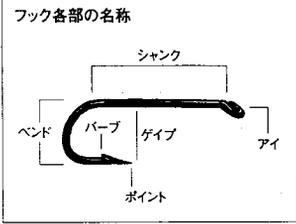
針が眼球に刺さってしまいました。近くの眼科医を経て、最終的には千葉県の病院まで運ばれたと聞いています。帽子とサングラスという考えうる最大の防御をとっていたにもかかわらず起きた事故でした。不運としか言いようがありません。

しかし、このような例外的な事故があるにしても、何よりも大切なことは「眼球を保護する心を忘れない」ことです。われわれ医師は、手術時に飛散する血液が眼球に入って肝炎やエイズなどに感染する可能性があるため、たとえ視力の問題がない者でも眼鏡を着用します。バスのプロのトナーメントでは競技中の帽子とグラスの使用が義務づけられていると聞いています。(コマーシャル媒体としての帽子でありサングラスでもあるのでしようがメディアを通じて一般の釣り人への影響も考えてのことであると思われ、よいことだと思えます。

子供たちの間で「王様」と呼ばれ、人気のあるルーアーフィッシュヤーがいますが、彼はツアープロではないので、ビデオ写りを気にしてか、帽子も、グラスもつけないことが多く、私は子供たちへの影響を非常に気にしています。加賀フィッシングエリアのことばかり書いてしまい恐縮ですが(別に他意は全くありません。あしからず)、里見さんもグラスをつけたいことが多く(私自身よく里見さんのビデオ



●ビデオ「Dr. Jim's How to Get The Hook Out」



フック各部の名称

「第三法」の基本手技は、「友人の指に刺さった釣り針を私が抜く場合」を想定するとわかりやすいと思います。「私」が右利きであると仮定して、友人の指に刺さった釣り針を抜いてみます。

①まず、友人の指をそばにある岩や倒木などの上に置き、「私」はフック（釣り針）のアイが左、ベ

を見るので、その影響を心配しておりません。自分の目を守るためにも、隣りで一緒に釣っている友人を「眼球損傷」の被害者や加害者にしないためにも、ぜひともグラス類の使用を心がけてほしいと思います（里見さん、どうかよろしく）。たとえ視力十分でも、偏光グラスなしで水中が見えても、そんなことに関係なく帽子とグラスの使用は釣りをするうえで常識であり良識であってほしいのです。

いよいよ本題です。用意するものは二つだけです。「タコ糸程度の太さの強い糸」（病院では手術用の太い絹糸を使いますが、フライラインやリーダーのバット部分でも可。タコ糸でも可）

「テープ」（セロテープあるいはビニールテープなどの粘着テープ。バンドエイドも可。これを持っているいないで大きな差が出ます。今後はベストのポケットにぜひ一つご用意ください）

**強、糸と粘着テープがあれば、体に刺さった釣り針は簡単に抜ける**

ンドが右になるように位置します。

②右手でフックのバンドに太くて強い糸をひと巻きし、小さく切った粘着テープで図①のよう

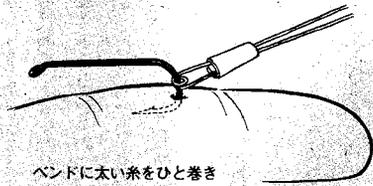
理由後はほどき説明します。

③ついで、左手の指のハラの部分を使い、シャンクが皮膚と平行になるように押さえます。理由は、糸を引いてフックを抜こうとするときアイ寄りのシャンクが起き上がらないようにするためです。フックは糸に引かれてバンド側に移動するわけですから、左手の指はフックのバンドが隠れるくらい、シャンクの全長をカバーするつもりで押さえなければなりません④。

④ここまで準備ができたなら、友人の出番です。彼の空いている方の手で、フック刺入ポイントの周囲の皮膚をフックシャンクと平行に、アイ側に向かって引っ張ってもらい、皮膚に緊張をかけてもらいます。これで「私」が引っ張る力と、友人が引っ張る皮膚との間に十分な力のベクトルの向きの差ができます。そうしたら、「私」は右手で持った太い強い糸をたるませて準備完了です。

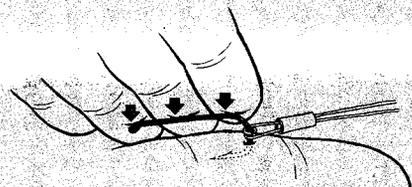
**指に刺さった釣り針を糸を使って抜く**

図①



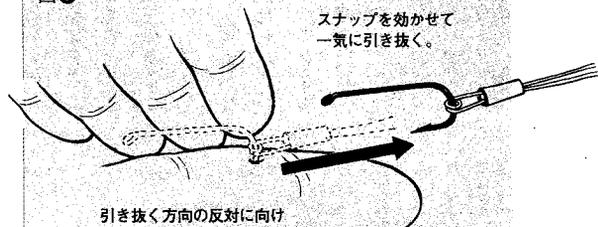
バンドに太い糸をひと巻きし、小さく切った粘着テープでループを作る。

図②



バンドが隠れるくらい、シャンクの全長をカバーするつもりで押さる。

図③



スナップを効かせて一気に引き抜く。

引き抜く方向の反対に向けて、針が刺さった所の周辺の皮膚を引っ張っておく。

⑤友人に話しかけ、気をそらせた瞬間、右手に持った糸を、スナップを効かせて一気に緊張させます⑥。「バン」という音が聞こえるくらい強く、瞬間的に力を入れます。どんなに大きな力を加えても、フックが抜けてしまえば後は関係ありません。思いきり力をかけて大丈夫です。むしろ、躊躇して中途半端な力かけると、完全な抜針は望めません。「友情とは大きな力と見つけたら！」とばかり、思いきり力をかけてください。

ここで、ループをつくった理由ですが、ループをつくらないと、抜いた後のフックが勢いよくどこかへ飛んでいってしまうからです。病院外来の小さな部屋でも飛んだフックを見つけるのは至難の業です。また、本人を含めて周りには至難の球を守るためにも大変重要なことですし、抜いたフックに破損がないことをつまり体内にフックの一

部が残っていないことを確認するためでもあります。

なお、倉上氏の文章中のイラストに、鉗子フォークでフックゲイブをつかんで抜くような図解がありました。これは養成できません。フックゲイブに絡めた糸がループ状になっていることが非常に大切だからです。刺さったフックを瞬時に抜き去るために最もふさわしい場所にあるためには、力点は固定されずに遊動的であるべきです。組織の損傷を最小限におさえるためにも、鉗子は使わず、糸を使用することを薦めます。

フックを抜いたあとは、ハンカチなどで五分間ほど押さえておきます(ちなみに、出血に対してハンカチやタオルで思いきりしばりあげて来院する方が多いのですが、これは思わぬ神経損傷や筋断裂などを起こすことがあります。出血に対しては、出血している場所を直接圧迫してジッと五分間ほどがまんしてください)。

ここまでは基本手技で、この先は応用編です。では、自分一人しかないときはどうするか。粘着テープに「友人の手」の役をさせます。例えば木の枝にフックの刺さった自分の腕をぐるぐる巻きに固定してしまいます。フックシヤンクを押さえる「私の左手」も同様に粘着テープをシヤンクの上から巻いて済ませます。このときシヤンクと粘着テープの間に枯れ葉などをはさむと、よく滑るので理想的です。あとは自分の右手で思いきり引つ張るだけです。手背部分に刺さったときも同様に処置できますが、粘着テープがなげ



ればシヤンクを木の幹や岩肌などに押しつけながら抜いてしまいます。

手のひら側に刺さったときは、各々の指でシヤンクを押さえることができます。ひらめきとセンスで応用を工夫してください。

### バーブが「釣り針刺傷」の元凶である

なるべく分かりやすく書いたつもりなのですが、いかがだったでしょうか？ やはり一番いいのはビデオなどで実技を見てもらうことだと思います。百聞は一見にしかず、と言います。私が実際に抜いているところを写したビデオがありますので、これをお見せできればいいのですが…。とはいえず、茨城県医師会報にこの「第三法」についての文章を書きましたが、申し出られて実際にビデオを見てくださった先生は県内にたったお二人でした。日常とても多い事故なのに、いかに関心が低いかがおわかりいただけるでしょうか。

現在、この文章を書き始めて途中書き直しをしたので約二週間たちましたが、この間に病院外来で私は三例の針刺し事故を処理しています(もちろん「第三法」で)。JCOのおかげですっかり観光客の足が遠のいてしまい、ハゼ釣りのお客さんがちらほらしかいないこの状態で三例もあつたのです。眼球損傷の可能性、子供たちに多いという事実、どれをとつてもつと注目されてしかるべき

問題ではないでしょうか。キャッチ・アンド・リリース、川の環境保全などと並んで、もつとバーブレスフック(バーブなしのフック)についての関心が高まってほしいものです。バーブレスフックのほうが製品数が少ないという現実を各釣り具メーカーはもう一度考え直してみるのが必要なのではないでしょうか。

岩井溪一郎さんや西山徹さん、里見栄正さんや田代法之さんなど、優れたフライフィッシングが(撮影用に)バーブ付きフックを使った場合でもバラしてしまうことがあるわけです。われわれがバーブレスフックを使ってバラしたところで当たり前のことだと思いませんか。素人のわれわれが仕事のための取材でもないのにバーブ付きのフックを使ってわざわざ「釣り針刺傷」を起こす必要はないはず。フライ歴が四年に満たない私が言うのもおこがましいのですが、フックにバーブが付いていなくてもフライフィッシングは十分過ぎるほど楽しいです。

最後にもう一度言わせていただきます。バーブが「釣り針刺傷」の元凶である、と。

※追記/おそらく「釣り針刺傷」にかかわる実態を全国誌に詳しく書かれたのは倉上氏が初めてではないでしょうか。本来ならばわれわれ医師が書いてしかるべきであり、倉上氏に対してあらためて敬意を表するとともに、われわれの不明をお詫びします。どうか、釣り針による事故が少しも減りますように。